

---

# 札幌は、優しい

キップル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

札幌は、優しい

### 【Nコード】

N4482I

### 【作者名】

キップル

### 【あらすじ】

故郷に帰ったときに改めて感じたことです。

2005年1月に札幌に帰省して感じたこと、「人間が優しい」

そつちの人には当然で、なんでそんなこと書くのか、と感じられるかも知れませんが、こつちの人間からすれば小さなショックでした。僕が自分のことを「こつちの人間」と自覚していることも悲しい気がします…。

とにかく、町で出会う人が表面的であるとしても優しいです。例えば…。

千歳から市内に向かう路線バスの運転手さん。出発前にしきりに無線を使っていた。で、発車時にアナウンス、

「トラックの人たちとかにも聞いてみましたが、市内けっこう混んでるみたいで、特に真駒内から向こう、のろのろしか動いてないみたいです。」

なんで、少し遅れると思いますのでご了承ください」

東京なら「遅れるかもしれない」なんて言う運転手さんはまずいない。それもこの運転手さん、自社情報だけではなく、ドライバーからも情報収集している。

そして、途中の赤信号で席を立って後ろまで歩いてきて、「お客さん、寒くないかい？　なんか暖房効かないんだわ」

と、みんなに。みんなは口々に「寒くないよ」と。「そっかい、寒かったら言ってね」

こんな光景は何年も見たことがない。ほかにもいくつか「なんて優しい人たちなんだ」と思わずにはいられないイベントがいくつもあったが、やはりもひとつだけバスの話。

帰り、やはり千歳までバスで行こうとしたら運転手さんとの会話になる。

「千歳までかい？」

「はい」

「この雪で途中の排雪」「除雪」じゃありません」追いついてなくて、全然進めないんだわ」

「2時半の便なんですけど…」

「…間に合わないわ」

「…」

「真駒内まで乗せてってあげるから、電車で行った方がいいよ」

「そうします」

「うん、そうしな」

「いくらでしたっけ？」

「一区間だけだから、いいわ」

と、こんな感じ これもあり得ない。

僕はあとあと思った。ひょっとして日本はおおかた優しいのではないか。優しくないのは東京だけではないのか。

大阪に行くと感じる、みんなが頻繁に「ありがとお」と言う。耳につく。東京では少ない言葉だ。

アメリカの田舎では、ちよっとうろつる迷っていると誰かが必ず声を掛けてくれる。

オーストラリアの郊外のレストランで深夜まで飲み食いした。外に出たら車の一台も走ってない。途方に暮れた。

すると早番の店員の女性が仕事を終えてやはり外に出てきた。「どのホテルに泊まってるの？」

彼女は僕ら三人を車で送ってくれた。お金でお礼をしようとする、「いらぬ。それより日本からメールをちょうだい」とアドレスを。こんなことは、下町ならいざ知らず、東京では滅多にお目にかかれない。

ビジネスで地方や外国に行っても、なかなかその土地の人情を感じず

ることは少ないと思う。しかし、「街」ではなく「町」に行くと感じる。

人一人ひとりは、本当は優しい。

僕も本当は優しかった。

今も本当は優しくありたい。

今は何かの目的のために、優しく振る舞っているだけだ。東京は大半の住人が「旅の恥はかきすて」状態、「旅先でゴミを捨てていく」感覚になっている。

「とりあえず住んでいる」からだ。いずれここではないどこかへ行くのだから東京がどうなるかとあまり関心がない、のだ。僕もそう。

本当はただただ芯から、心から優しくいたい。

それには札幌に帰るのがいちばん手っ取り早いことは分かっている。あるいは国内でも国外でもいい、田舎に住む。

思い起こせばこのことはもうとっくに詩に書いてた。「さよならトキヨ さよならヤープアン」

「こっちの人間」になってしまったと思いつつ、「こっち」に染まりきれない自分がいる。

染まることのできないのは、焦燥であり、一片のプライドでもある、ような気がする。

まるで反復行動をしている動物園のライオンのようだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4482i/>

---

札幌は、優しい

2010年10月12日14時05分発行